

教えて！ ドクター Q&A

(株)宣通 (052) 979-1602 広告

Q 母親(75歳)が変形性膝関節症の診断で通院治療中です。お薬や注射ではあまりよくなり、痛みで歩行困難となってきた手術を勧められたのですが、本人は手術を受けたくないといひます。他にどのような治療がありますか。

A ご相談有難うございひます。変形性膝関節症による膝痛、歩行障害は多くの方々が悩んでおられる疾患の一つです。歩けなくなると移動能力の低下、その後心肺機能の低下、ひいては生命予後に繋がるということと整形外科的疾患は健康寿命に関わるロコモティブシンドロームとして近年注目されています。そこで、おそらくお母様は手術の中でも「全人工関節置換術」を勧められたと推察いたします。手術は治療の中では最終的な治療手段ですのでなるべく受けたくないというお気持ち

はお察しいたします。

そこで私からは「ラジオ波治療」を提案させていただきます。

この治療は2023年から保険診療の適応となり新たに変形性膝関節症の疼痛治療として国から認可を受けております。まだ新しい治療ですので不安があると思いますが、欧米をはじめ多くの国々で既に治療法として確立されています。治療自体は局所麻酔下に膝関節周囲の3か所の感覚神経に対してラジオ波による熱処理をすることで疼痛緩和を得る手段です。薬物療法(内服、外用、関節腔内注射)やリハビリテーションを併用することと更なる治療効果を得られると思います。

詳しくは関節治療を専門とする整形外科専門医による診察を受けて相談してください。早く良くなると良いですね。

1995年京都府立医科大学医学部卒業、2005年名古屋大学大学院修了医学博士、南カリフォルニア大学博士研究員、2010年名古屋第二赤十字病院整形外科副部長、2015年名古屋グランパス専属チーフチームドクター、2020年現職。日本整形外科学会認定専門医、同学会認定スポーツ医、日本スポーツ協会公認スポーツドクター。



院長 深谷 泰士
(あつたの社 整形外科スポーツクリニック)